



下関市長の部屋

検索

<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>



関係者から「下関地酒プロジェクト」の報告を受ける、中尾市長(左)と関谷市議会議長(2015年12月1日/下関市役所)

「100%下関産」の日本酒を 新たな特産品に

んには。市長の中尾友昭です。昨年12月、JA下関の村上達己組合長と下関酒造(株)の内田忠臣社長の訪問を受け、「下関地酒プロジェクト」の取り組みについて報告をいただきました。

JA下関では、主食用米の消費が伸び悩み、価格も不安定な中、農家の所得を維持するための方策を模索していました。主食用米と比べて価格が高く需要が増えている酒米にも注目していましたが、収量が少なく栽培管理も難しいことから、農家に酒米を作ってもらうことは容易ではありませんでした。一方、下関酒造は、下関産の酒米と水だけを使い、地元産の原料にこだわった地酒を造りたいという思いで、数年前から原料の酒米の栽培・供給を市内の農家においてきました。しかし、酒米は主食用米と異なり、穂の背丈が高く風雨の影響を受け倒れやすいこと、栽培管理のノウハウや実績も少ないことから、生産量の拡大が進まない状況にありました。そこで、JA下関と下関酒造は協議を重ね、このプロジェクトを

立ち上げました。JAは酒米を栽培するための技術指導・技術支援を行う態勢を整え、栽培に興味がある農家に声を掛けた結果、今年度は酒米「山田錦」が1畝ほどで栽培され、生産者や関係者の努力で計画収量以上の約3・4割が収穫されました。

下関酒造では2月ごろから仕込みを始め、4月中旬には「100%下関産」の地酒が誕生する見込みです。4合瓶(720ミリ)で1200、1300本程度を、主に市内の旅館や飲食店に出荷する予定だそうです。5月にはお披露目会を開く計画もあり、私も楽しみにしています。

本

市は「ふく」をはじめ多くの農水産物ブランドを誇っています。さらにこの新しい地酒が市民の皆さんに愛され、全国的にもアピールできる、下関の新しい特産品になることを期待しています。

うまく軌道に乗り、増産できることを願うとともに、おいしいお酒を楽しく味わうことで、私もこのプロジェクトを応援したいと思います。

しものせきナビ vol.63

幕末維新紀行

史跡 中山忠光墓

下関市綾羅木本町七丁目



中山忠光墓は、綾羅木本町七丁目の中山神社社殿そばの砂丘上にあります。中山忠光は、弘化2(1845)年、中山忠能の七男として京都で生まれ、若年時から勤王思想をもつ諸藩士などと交わり、尊王攘夷派公家の代表的な存在となりました。文久3(1863)年3月の攘夷祈願の賀茂行幸に供奉したのち、攘夷戦参加のため官を辞して来関しました。下関では竹崎の白石家を宿所とし、6月1日までの滞在中、光明寺党結成、



台場築造、真木和泉救出などに参画しました。帰京後は天誅組を結成し、大和で倒幕の兵を挙げましたが、8月18日の政変により孤立。幕府軍に討伐され、長州に落ち延びました。その後、長府藩に保護され、藩内各所に潜伏しましたが、禁門の変や下関戦争での敗北などにより、尊王攘夷運動が挫折した元治元(1864)年の冬、潜伏先の田耕村で暗殺され、20年足らずの短い生涯を閉じました。遺骸は下関に送られる途中、綾羅木村付近で夜が明けたことから、この地に密かに埋葬されました。幕末の下関での活躍と悲劇的な最期から、多くの尊崇を受け、墓所は昭和16(1941)年8月1日に国史跡に指定されています。